

3月の校長室よりー温んだ水に知る春の喜びー

三月の声のかかりし明るさよ

この季節の朝、水道の蛇口をひねると、水が温んだなあと感じることがあります。春になれば水が温む、昔からこのことを身をもって知って知り、大きな喜びとしてきたのは、家庭の台所をあずかって人や水仕事をしている人たちです。これは手や足の皮膚感覚でとらえた春ということになります。清掃でのぞうきんがけをする児童から「水が温くなってぞうきんがしぼりやすくなったよ」という声が廊下から聞こえてきます。

水が温むのはこのうえなく嬉しい、それはそのまま春を迎える喜びでもあります。

新任の教師にミモザ咲き揃ふ

2月から3月のころ、広がった枝にかたまって咲く小さなボンボンのような黄色い花をつける「ミモザ」。ミモザときくと、古いフランス映画の「ミモザ館」の影響もあってヨーロッパの雰囲気を感じさせる花として親しまれるようになりました。また、ミモザの黄色い花の連想で、ゆで卵の黄身を裏ごしして、細かく刻んだ白身とともに野菜にふりかけた「ミモザサラダ」があります。我々の世代ではゴスペラーズの曲「ミモザ～ガラスの靴で踊るミモザ～」など、春に沸き立つイメージにふさわしい花の一つにもなっています。

